

# ひとくち英会話

## 【病院で困っている外人さんに声をかけましょう】

❖ **May I help you?**

→ どうかありませんか？

❖ **Which department are you visiting?**

→ 何科にかかりたいのですか？

❖ **The clinic is open from 9:00 in the morning till noon.**

→ 受付時間は 9 時から正午までです。

❖ **Do you have health insurance?**

→ 健康保険証をおもちですか？

❖ **If you are not covered by insurance, you will have to pay all your medical charges.**

→ 健康保険証がないと、自費診療になります。

❖ **Please put your I.D card in the box at the reception desk.**

→ 診察券をこのボックスに入れてください。

❖ **Please be seated here until your name is called.**

→ 名前が呼ばれるまで、こちらでお待ち下さい。

❖ **Please come to room No. ○ when your name is called.**

→ 名前を呼ばれましたら、○番のお部屋にお入り下さい。

❖ **We use a system of written prescriptions, which is available for outside pharmacies.**

→ 当院では院外処方箋を発行しています。

❖ **Please take this prescriptions to a pharmacy. There are several pharmacies around here.**

→ この処方箋を持って調剤薬局において下さい。調剤薬局はこの近くに何箇所かあります。

❖ **You can use this prescriptions within 4 days.**

→ この処方箋は発行日を含め4日間有効です。

❖ **Please take care.**

→ どうぞ、お大事にしてください。

❖ 皆様のご支援でこのコーナーは続いています。皆様の Support に感謝しております。

【小松京子】

## 投稿

### 臨検小話 < =その6= >

新屋 博 明 (エムティー法務研究会)

#### レクチン lectin

技師学生の頃、「植物の種子や根などの抽出物には赤血球抗原と反応して凝集するものがある」<sup>1)</sup> という教科書の説明を読んだ私は、「レクチンの発見者は、どうして植物の抽出物と血液を反応させることを思いついたのか？」と不思議に思ったものです。

先日、血痕鑑定の本を読んでいたら、「ヒマシ油をとるヒマ(蓖麻)、別名はトウゴマ(唐胡麻) *Ricinus communis* の毒性の研究をしていたエストニア Estonia の学生が、ヒマの抽出液と血液を混ぜると凝集することを発見した」<sup>2)</sup> という説明が載っていました。どうやら、植物の毒性について調べていた学生の実験がレクチン発見の端緒になっていたようです。

この学生の発見を契機にして、ある特定の型の血液だけを凝集させる植物の抽出物が次々に発見されたので、このような血液型特異性を示す植物凝集素 phytohemagglutinin は、“選り出す” という意味のラテン語 “legere” に因んでレクチン lectin と命名されたそうです<sup>2) 3)</sup>。

私の認識は、「レクチン=血液型特異性を示す植物凝集素」という程度のもので、レクチン発見の端緒を開いたのは血液型や輸血学の研究者だろうと思っていました。まさかヒマの毒性の研究をしていた学生だったとは！これまた想定外でした。

ちなみに、厚生労働省の web ページに「レクチンは糖に結合するタンパク質の総称で、動物や植物に広く分布しています。」<sup>4)</sup> という説明が載っていたので、最後に付け加えておきたいと思います。

#### ■文献

1) 小島健一：臨床免疫学 (第 2 版), 57, 医学書院, 1987

2) 坂井浩子：血痕は語る, 118, 時事通信社, 2001

3) ストライヤー生化学 (第 4 版), 477, トップラン, 1996

4) 「白インゲン豆の摂取による健康被害事例について」(平成 18 年 5 月 22 日、厚生労働省食品安全部監視安全課)

### 8月の花

あさがお



日が短くならないと咲かない花で「短日植物」です。

その原産地は中国南部で日本へは奈良時代に持ち込まれたようです。当時は、薬用植物として用いられたようです。

日がよく当たり、排水と保水性のよい、あまり肥沃でない所を好みます。大輪の花を咲かせるには高度な技術が必要ですが、普通に栽培するのは簡単です。長く楽しめる花で、開花期は 7~9 月です。

花言葉は「**愛情の絆**」です。